

# 都市再生特別地区（築地一丁目地区） 都市計画（素案）の概要

住友不動産株式会社

# 計画概要

## 位置図



## 配置図



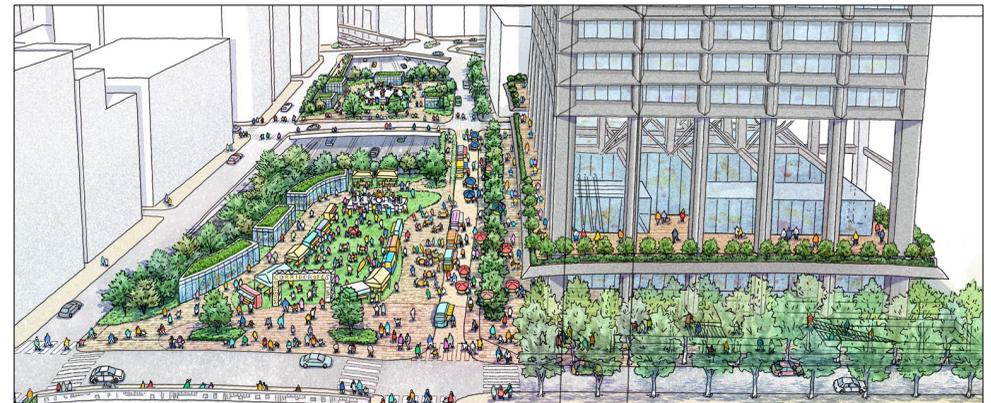
## イメージパース



A街区外観イメージ



B街区外観イメージ



A街区低層部イメージ

※イベント時のイメージ  
 ※覆盖化広場の具体の設計は、今後中央区が首都高道路路株と連携して実施予定

※現時点での計画であり、今後関係者との協議及び検討の進捗により変わります。

# 計画概要

## 計画概要

地区名	築地一丁目地区		
計画地の位置	東京都中央区築地一丁目地内		
地域地区	商業地域／防火地域／都心部駐車場整備地区／築地地区地区計画		
都市計画手法	都市再生特別地区、市街地再開発事業		
指定容積率	600%		
基準建蔽率	80%(防火地域内の耐火建築物により100%)		
街区別諸元	全体	A街区	B街区
都市再生特別地区区域面積	約1.4ha	約1.0ha	約0.4ha
計画容積率	約1,350%	約1,560%	約690%
建築物の高さ	－	約180m (T.P.+4.7m)	約110m (T.P.+2.2m)
敷地面積	約11,570㎡	約8,760㎡	約2,810㎡
延床面積	約189,000㎡	約160,000㎡	約29,000㎡
容積対象面積	約156,000㎡	約136,600㎡	約19,400㎡
主要用途	－	事務所・店舗 文化・交流施設 駐車場等	住宅・福祉施設 駐車場等
階数	－	地上31階／地下3階	地上29階／地下1階
駐車台数 (内荷捌き台数)	約321台 (11台)	約249台 (10台)	約72台 (1台)
駐車バイク台数	約54台	約12台	約42台
駐輪台数 (内公共用駐輪場台数)	約474台 (10台)	約205台 (10台)	約269台
予定工期※	2027年度 (令和9年度) 着工予定～2032年度 (令和14年度) 竣工予定		

※覆蓋化広場整備及び区道447号の高上げは、首都高速都心環状線 (築地川区間) の更新と合わせて行う必要があるため、首都高速道路機構が実施する更新事業のスケジュールによる。

# 都市再生への貢献の考え方

## 1 まちの回遊性向上に資する 広域都市基盤整備への貢献

1. 周辺開発と連携し、築地駅と覆蓋化広場をつなぐ快適な歩行者ネットワークを整備
2. 覆蓋化広場から隅田川付近に至る道路の表層整備等による、みどり豊かでウォーカブルな歩行者空間の創出
3. 首都高上部の覆蓋化広場整備への協力、および一体的な空間の形成

## 2 まちの魅力向上を支える都市機能の導入

1. 人と伝統文化が自然と出会う多様な場を整備し、銀座と築地をつなぐ「伝統文化と暮らすまち」を創出
2. 多世代が住み続けられるまちづくりの推進に向けた特別養護老人ホーム・アフーダブル住宅等の整備

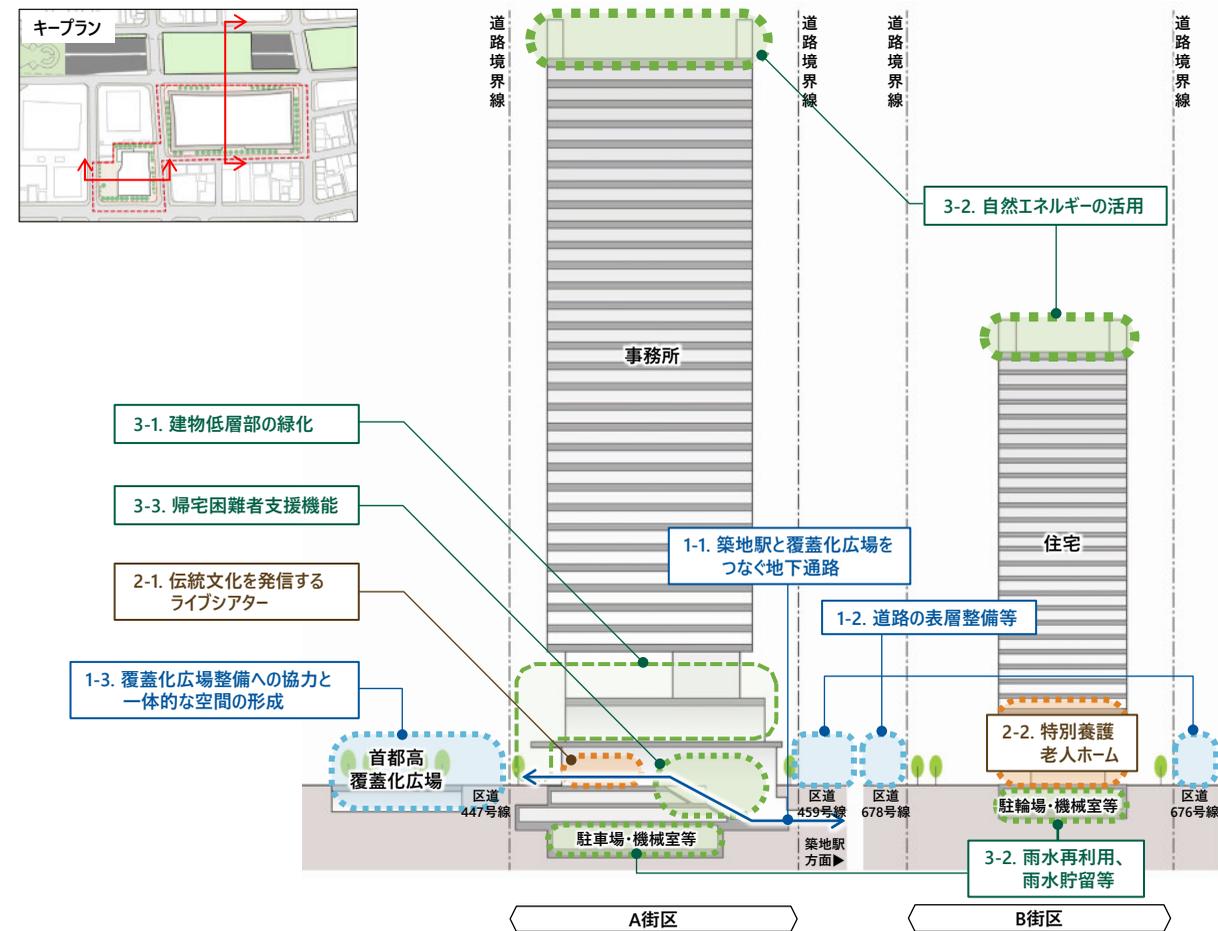
## 3 環境負荷低減と防災拠点整備

1. 覆蓋化広場とのつながりを意識したみどりの創出
2. 環境負荷低減への取組
3. 帰宅困難者支援や自立・分散型エネルギーシステムの構築による防災対応力強化

### <平面イメージ>



### <断面イメージ>



※現時点での計画であり、今後関係者との協議及び検討の進捗により変わります。

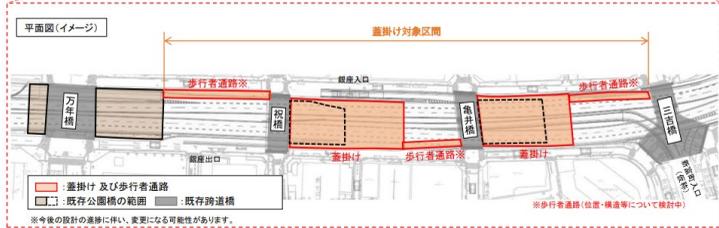
# 1. まちの回遊性向上に資する広域都市基盤整備への貢献

## まちづくりの動向

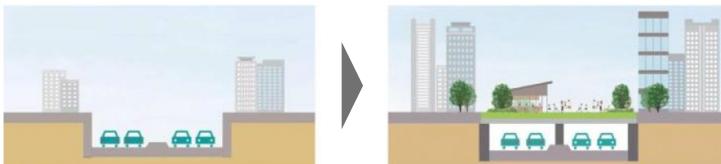
### 首都高速都心環状線（築地川区間）の更新事業

- 老朽化が進む首都高速都心環状線（築地川区間）において、現行基準に合った擁壁に造り替える更新事業を首都高速道路株が実施
- 首都高速道路株による築地川区間の擁壁の更新事業にあわせて、中央区が上部空間を活用した覆蓋化広場の整備を実施

<築地川区間概要図>



<都心環状線更新事業にあわせて上部空間の活用イメージ>



※画像出典：首都高速道路株式会社HP（一部加筆）

## 上位計画

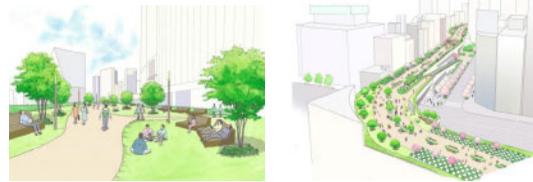
### 築地川アメニティ整備構想（令和元年 中央区）

- 首都高速の築地川区間の上部空間を活用することで、**現在分節されている銀座と築地のまちをつなぎ、快適かつ良好な新たな都市空間の創出**を目指す。
- 周辺の緑とつながり、四季の移ろいを感じる**“水と緑のネットワーク”**
- 東銀座駅、新富町駅、築地市場駅の地下鉄駅間の人の流れをつくり、新たな回遊が生み出す**“交通結節性の高い歩行者ネットワーク”**
- 銀座・築地の地域特性を生かしたイベント展開など、**“誰もが体験・交流・発信できるパブリックスペース”**



### 銀座・築地周辺みどりのプロムナード構想（令和3年 中央区）

- 「東京高速道路（KK線）再生方針」と「築地川アメニティ整備構想」の連携により、広域的な歩行者中心の**水とみどりのネットワーク**の形成を目指す。
- 銀座・築地周辺のポテンシャルを生かし、日本国内の魅力の世界に発信する**都心に開かれた緑豊かなアメニティ空間**の創出



## 都市再生の方向性

首都高の更新・覆蓋化広場の整備と連携のもと、銀座と築地をつなぐ快適な歩行者ネットワークを整備し、まちの回遊性の向上を目指す

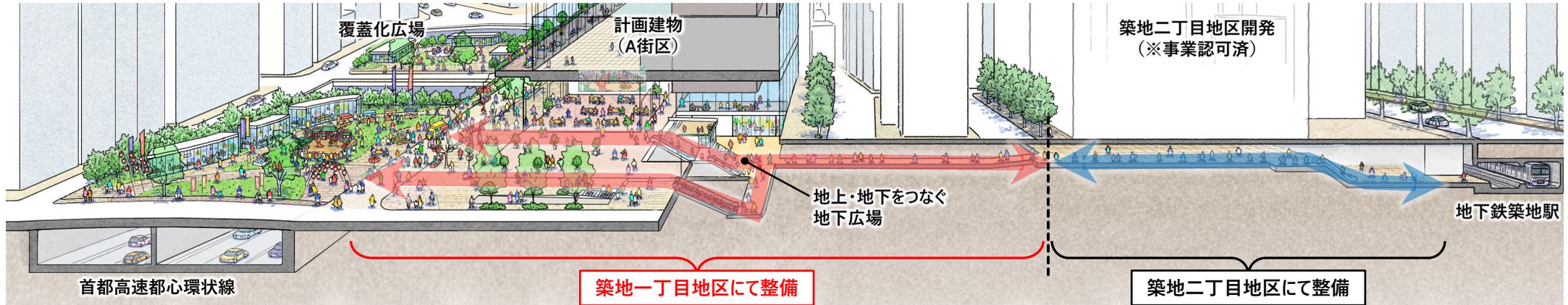
# 1. まちの回遊性向上に資する広域都市基盤整備への貢献

## 1-1 周辺開発と連携し、築地駅と覆蓋化広場をつなぐ快適な歩行者ネットワークを整備

- 整備内容** ・ 築地二丁目地区開発と連携し、地下鉄築地駅と覆蓋化広場をつなぐ快適な地下歩行者ネットワークを整備

### 築地駅と覆蓋化広場をつなぐ歩行者ネットワークのイメージ

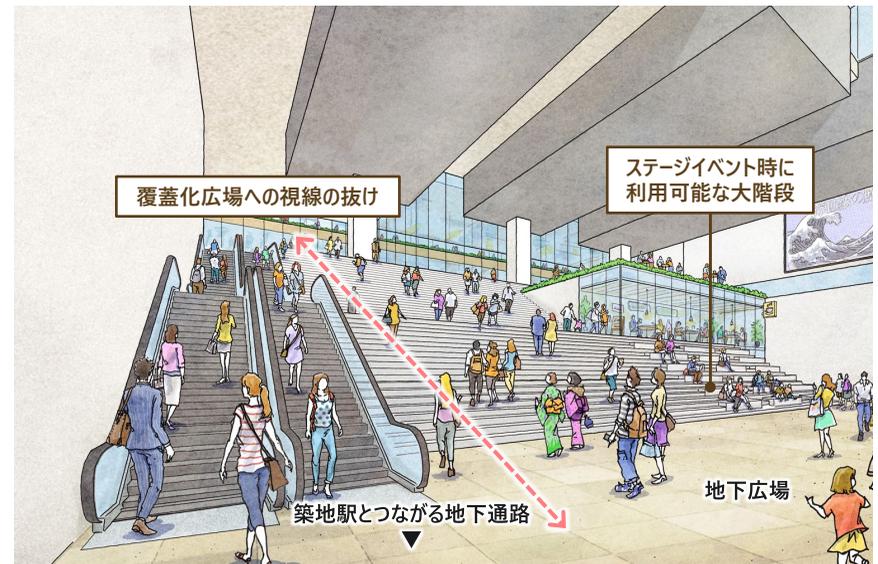
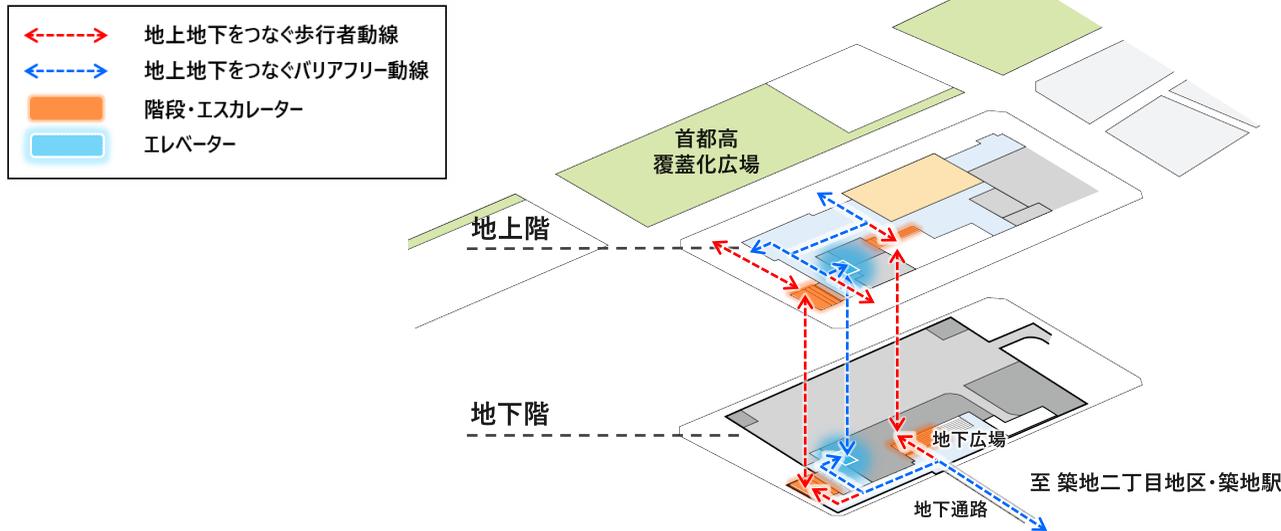
### 駅と覆蓋化広場をつなぎ、利便性の高い快適な歩行者ネットワークを形成



※イベント時のイメージ ※覆蓋化広場の具体の設計は、今後中央区が首都高速道路(株)と連携して実施予定 ※地下通路の接続工事については、築地二丁目地区の事業完了後に実施予定

### 建物内の歩行者ネットワークイメージ (A街区)

### 地上・地下を一体的につなぐ地下広場イメージ



※現時点での計画であり、今後関係者との協議及び検討の進捗により変わります。

# 1. まちの回遊性向上に資する広域都市基盤整備への貢献

## 1-2 覆蓋化広場から隅田川付近に至る道路の表層整備等による、みどり豊かでウォーカブルな歩行者空間の創出

### 整備内容

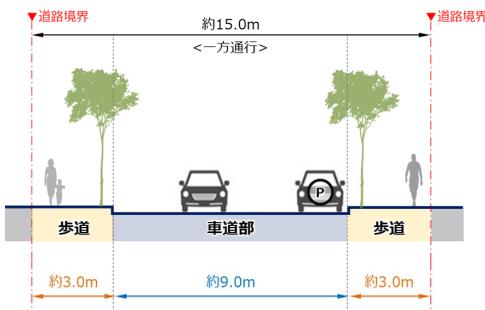
- ・ 覆蓋化広場から隅田川付近に至る道路の表層整備等により、首都高覆蓋化広場と駅・まち・水辺をつなぐ東京の新しいネットワークを形成し、地域の魅力とみどりが広がるウォーカブルなまちを実現する

覆蓋化広場から隅田川付近に至る道路の表層整備等により、みどりのネットワークを強化し、まちの回遊性を向上

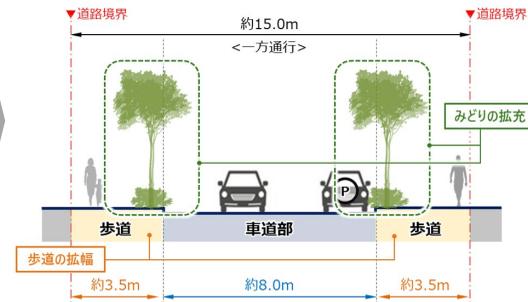


道路整備の断面イメージ (区道672号)

【現況】



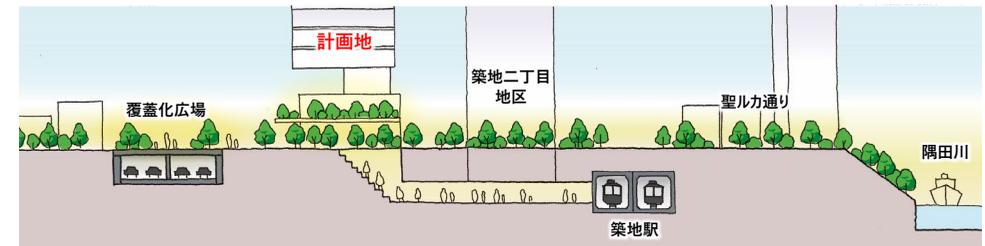
【将来】



覆蓋化広場から駅・まち・水辺をつなぐウォーカブルな空間形成イメージ



駅・まち・水辺をつなぐ断面イメージ



※現時点での計画であり、今後関係者との協議及び検討の進捗により変わります。

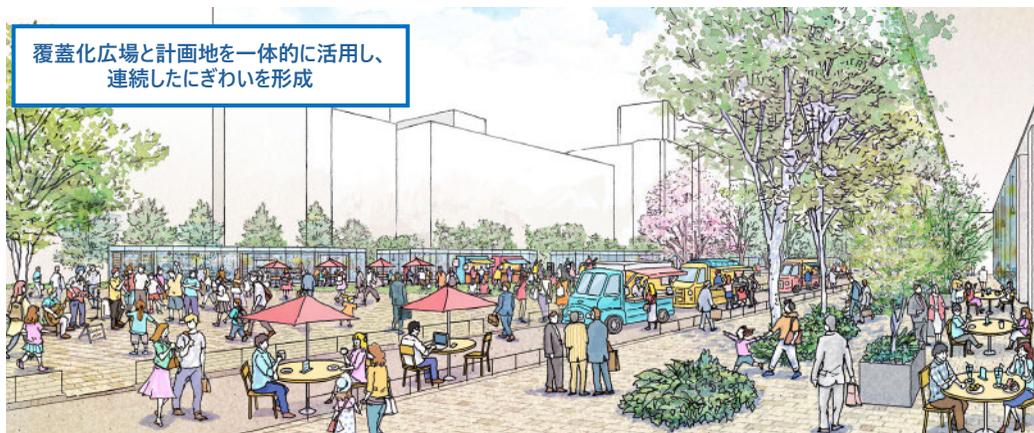
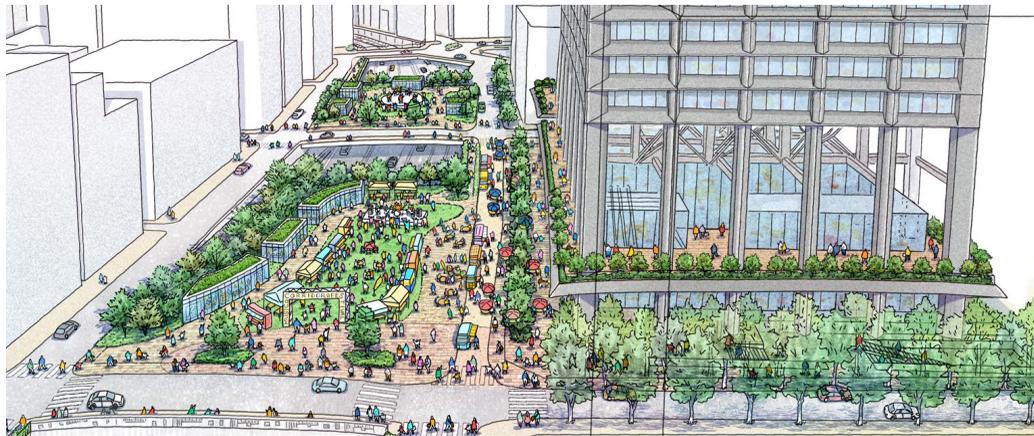
# 1. まちの回遊性向上に資する広域都市基盤整備への貢献

## 1-3 首都高上部の覆蓋化広場整備への協力、および一体的な空間の形成

- 整備内容**
- 首都高速道路株が行う首都高速都心環状線（築地川区間）の擁壁等の更新事業と連携し、中央区が実施する首都高上部の覆蓋化広場整備へ協力
  - 覆蓋化広場に面した区道447号を覆蓋化広場のレベルに合わせて高上げし、覆蓋化広場と道路、計画地で一体的な空間を形成

### 首都高上部の覆蓋化広場整備への協力と区道447号の高上げによる一体的な空間の形成

- 首都高の擁壁の更新事業に併せて中央区が実施する**覆蓋化広場整備へ協力**するとともに、**覆蓋化広場に面した区道447号を覆蓋化広場のレベルに合わせて高上げ**し、計画地内に歩道状空地や広場、にぎわい施設を整備することで、**覆蓋化広場と計画地で一体的な空間の形成を図る。**



覆蓋化広場と計画地を一体的に活用し、連続したにぎわいを形成

※イベント時のイメージ  
 ※覆蓋化広場の具体の設計は、今後中央区が首都高速道路株と連携して実施予定

<現況：横断イメージ>



<将来：横断イメージ>

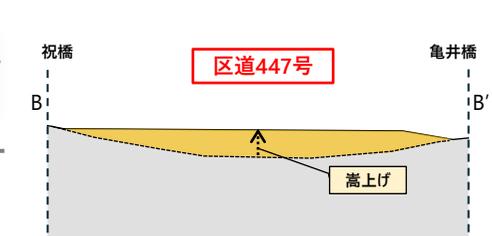


覆蓋化広場に面した区道を高上げし、覆蓋化広場と道路、計画地で一体的な空間を形成する。区道の高上げにあたっては、首都高速道路株と連携し、構造上安全となるような擁壁等の計画を行う。

<現況：縦断イメージ>



<将来：縦断イメージ>



## 2. まちの魅力向上を支える都市機能の導入

### 上位計画

#### 2050東京戦略（令和7年 東京都）

- 幸福と創造性をもたらす**芸術文化は、「あればいい」ものではなく、人々の暮らしにとって「欠かせない」存在**
- 様々な文化や生活様式、建物など、**江戸の傑出した伝統を着実に後世へと引き継いでいく。**

#### 都市づくりのグランドデザイン（平成29年 東京都）

- 日常生活の中でも文化・芸術を身近に体験できるよう、地域の様々な主体が連携し、道路や公園、駅などを含め、**まち全体で文化・芸術に親しめる空間の創出を図る。**

#### 東京文化戦略2030（令和4年 東京都）

##### 【目指すべき姿】

- 芸術文化の敷居が低くなり、**誰もが芸術文化に触れ、参加できるような環境になっている。**
- 劇場や美術館などの**場所や時間にとらわれない、芸術文化へのアクセシビリティが実現し、地域やまちなかに気軽に発表・体験・鑑賞できる場が広がり、芸術文化が地域に根付いている。**

#### 築地川アメニティ整備構想（令和元年 中央区）

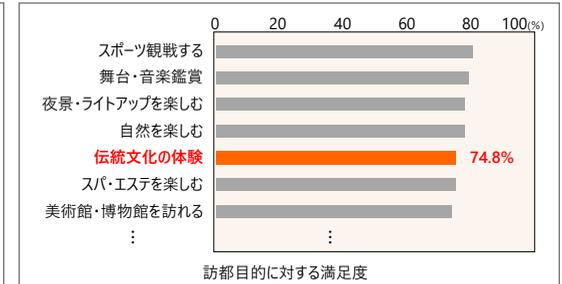
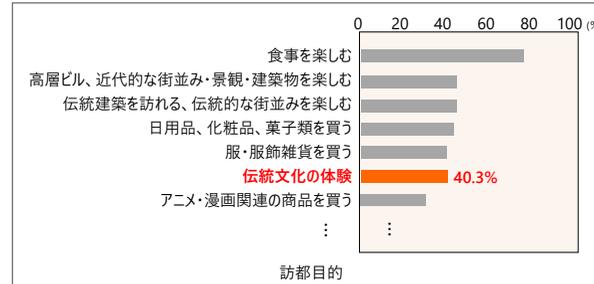
- 銀座・築地の地域特性を活かしたイベント展開など、年間を通じて大小様々なイベントが行われる**“誰もが体験・交流・発信できるパブリックスペース”**

誰もが日常の中で文化・芸術を  
身近に体験できる環境が求められている

### 調査

#### 訪日外国人の伝統文化への関心の高さ

- 訪日外国人の訪都目的、訪都目的に対する満足度の内、「**伝統文化の体験**」は高い割合を占め、**伝統文化の発信が訪日外国人の誘致に寄与することが伺える。**



参考：令和6年国・地域別外国人旅行者行動特性調査報告書（令和6年 東京都）

### 歴史

#### 銀座・築地エリアにおける文化施設の集積

- 歌舞伎座をはじめ、銀座・築地エリアには昔から**多くの文化施設が集積する。**
- 現在も知名度の高い施設が集積するが、**一体的な賑わいを形成しているとは言い難い。**



明治～大正期



現代

### 都市再生の方向性

周囲のまちと連携した文化発信・賑わい形成により、「文化のまち」としての魅力強化する

## 2. まちの魅力向上を支える都市機能の導入

### 2-1 人と伝統文化が自然と出会う多様な場を整備し、銀座と築地をつなぐ「伝統文化と暮らすまち」を創出

#### 整備内容

- 伝統文化等多様なコンテンツを発信するライブシアターに加えて、地下広場、アトリウム、まちかど広場等を活用し建物全体で文化発信を行い、人々が伝統文化に触れられる機会を創出することで、エリアとしての文化の魅力を向上

#### 建物全体での伝統文化の発信により、人々が文化を身近に触れられる機会を創出

##### 伝統文化をまちに “表出させる”まちかど広場



出典：PIXTA  
伝統文化に関するまちなかへの情報発信イメージ

##### 伝統文化を“鑑賞する”アトリウム

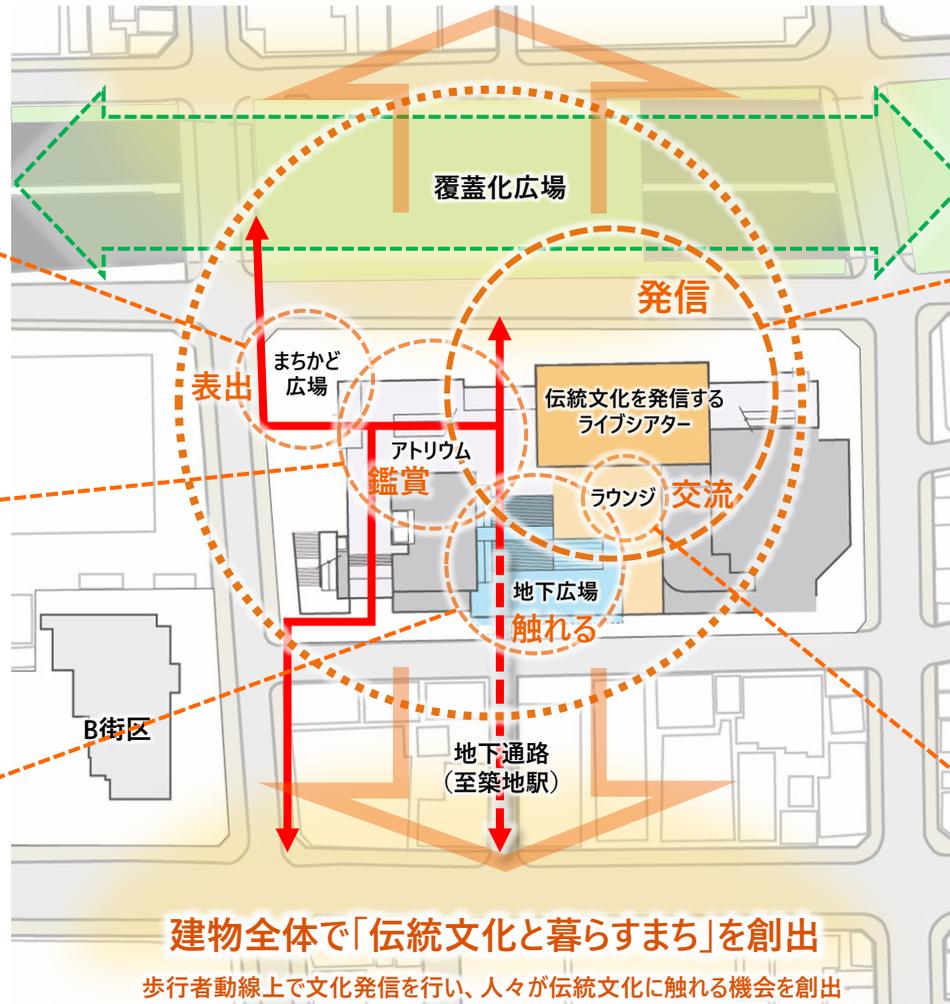


伝統文化に関する展示イメージ

##### 伝統文化に“触れる”地下広場



地下広場のイベント開催イメージ

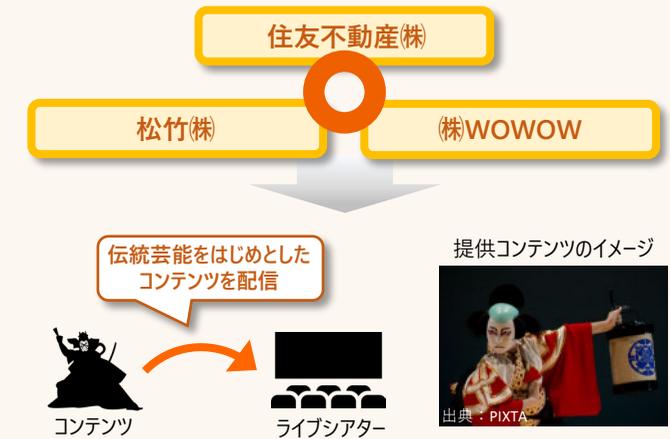


**建物全体で「伝統文化と暮らすまち」を創出**  
歩行者動線上で文化発信を行い、人々が伝統文化に触れる機会を創出

#### 伝統文化等多様なコンテンツを“発信する”ライブシアター

住友不動産(株)・松竹(株)・(株)WOWOWで連携のもと、伝統芸能やライブパフォーマンス等多様なコンテンツを発信するライブシアターを整備する。「敷居を下げた」新たな形の伝統文化鑑賞の場をつくり、国内外の人々が伝統文化に触れる切っ掛けをつくる。

##### 【施設の運営イメージ】



#### 伝統文化“交流”の場としてのラウンジ



伝統芸能関連のトークショー等を開催し、文化的な交流を促進



## 2. まちの魅力向上を支える都市機能の導入

### 上位計画

#### 2050東京戦略（令和7年 東京都）

- 多様なニーズに対応した住宅の供給を進め、**高齢者が快適に住み続けられる環境を整備**
- 特別養護老人ホームの定員数64,000人分確保**
- 既存ストック等を活用し、多様なライフスタイルやニーズ等に対応した良質な住宅の充実を図っていく。**
- 民間活力を活用し、**子育て世帯等が住みやすいアフォーダブル住宅を供給**

#### 都市づくりのランドデザイン（平成29年 東京都）

- 高齢者や子育て世代、障害者などあらゆる人が暮らしやすい場を提供するとともに、ライフスタイルや価値観の多様化に応じて、住み、働き、憩う場が選択できる都市を目指す。**

#### 東京都住宅マスタープラン（令和4年 東京都）

- 子供が健やかに育つことができるなど、**子供を産み育てようと思えるような子育てしやすい環境を充実させていく。**
- 高齢者が、住み慣れた地域において多様な世代からなるコミュニティの中で安心して住み続けることができるよう、**高齢者のニーズに応じた住宅の供給を促進していく。**

住まいの確保に配慮を要する人々への  
ニーズに応じた住まいの供給が必要

### 都市再生の方向性

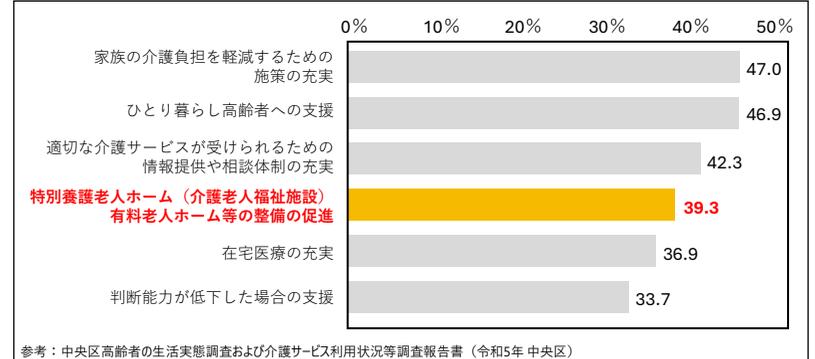
高齢者や子育て世代などあらゆる世代が安心して暮らし続けられる環境づくりを推進する

### 調査

#### 特別養護老人ホームのニーズの高さ

- 東京都における特別養護老人ホームの入所申込者数は、計20,650人※1
- 中央区において**特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、有料老人ホーム等の整備に対する要望が39.3%と高い割合を占める。**

※1 特別養護老人ホームの入所申込者の状況に関する調査（令和7年 東京都）参照



参考：中央区高齢者の生活実態調査および介護サービス利用状況等調査報告書（令和5年 中央区）

中央区民が力を入れるべきと考える高齢者保健福祉施策

#### 若年層や子育て世代が子育てを行う上で感じる課題

- 子育てをする上での住環境・教育の課題として、「**住宅に係る家賃や購入費が高い**」ことは最も高い割合を占め、住まいの確保に係る費用の高さがが子育てを行う上での主要な課題となっていることが伺える。



出典：令和7年度 若年層及び子育て世代を対象とした意識調査（令和7年 東京都）※一部加算

望む人が子育てをする上での住環境・教育での課題に関する調査結果

## 2. まちの魅力向上を支える都市機能の導入

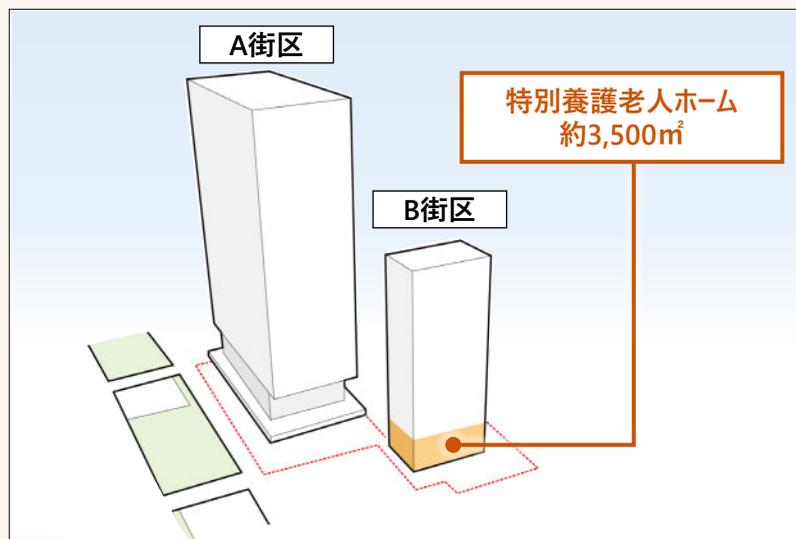
### 2-2 多世代が住み続けられるまちづくりの推進に向けた特別養護老人ホーム・アフォーダブル住宅等の整備

#### 整備内容

- ・ 超高齢社会において高齢者が住み続けられる地域づくりを推進するため、施設待機者が多く、不足している特別養護老人ホームを整備
- ・ 少子化社会における子育て世代等への支援として、既存ストックを活用し、アフォーダブル住宅を整備

#### 地域課題を踏まえた特別養護老人ホーム等の整備 (約3,500㎡)

超高齢社会において、高齢者が住み続けられるまちづくりの推進に向けて、B街区低層部に**特別養護老人ホーム**を整備する。ロボット・DX技術等の導入による介護の効率化・人員の削減を図り、高齢化社会における人材不足への対応を目指す。



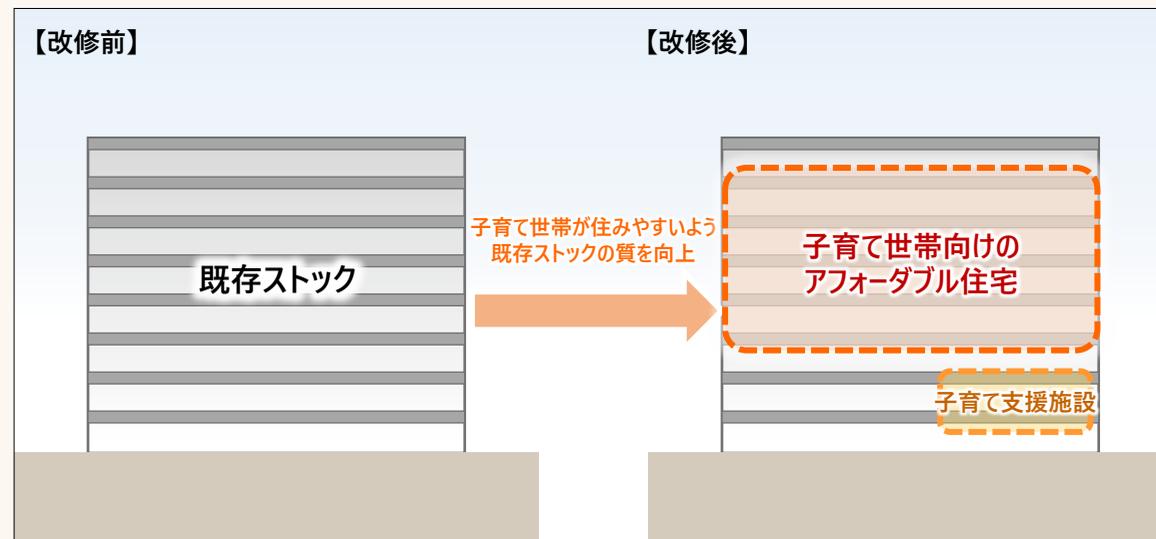
施設イメージ



先端技術を用いた介護のイメージ

#### 既存ストックの活用による子育て世帯に向けたアフォーダブル住宅の整備 (約2,300㎡)

中央区内の既存ストックを活用し、**東京子どもすくすく住宅 (セレクトタイプ)** に適合し、子育て世帯をはじめあらゆる世代が安全に暮らせる**アフォーダブル住宅**を整備する。また、居住者等が自由に利用できる**子育て支援施設 (キッズルーム)**を整備する。滑りにくい床素材の選定や、騒音対策、けが防止対策等を行い、安心して過ごせる空間を整備する。



住宅イメージ



子育て支援施設イメージ

- ・ 入居対象者の想定  
：新婚世帯・乳幼児の子育て世帯等
- ・ 住戸数：約50戸
- ・ 住戸サイズ：約40~50㎡
- ・ 合計面積：約2,300㎡

整備概要

# 3. 環境負荷低減と防災拠点整備

## 3-1 覆蓋化広場とのつながりを意識したみどりの創出

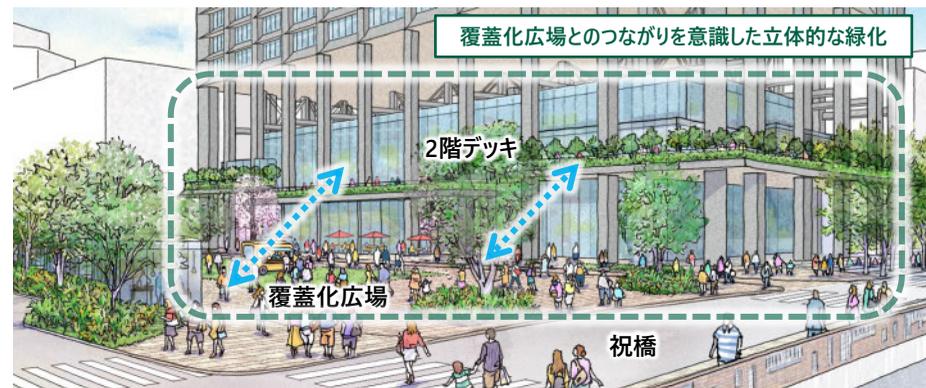
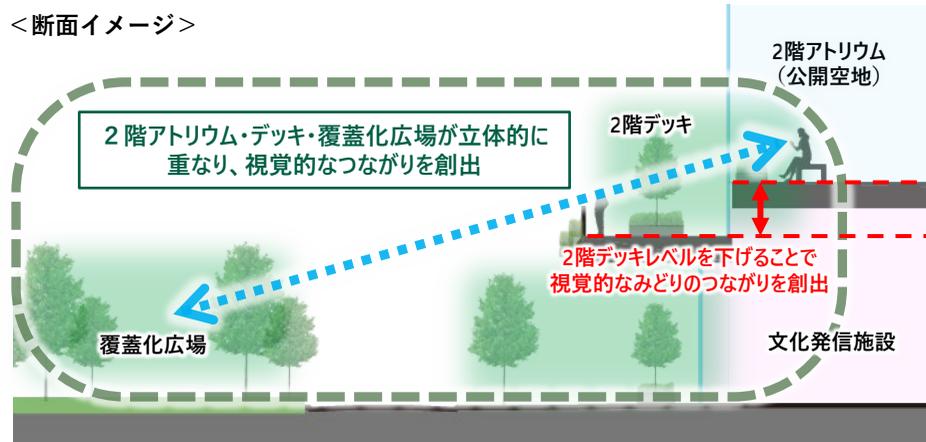
### 整備内容

- 覆蓋化広場とのつながりを意識しながら地上部と2階デッキの緑化を行い、計画地及び覆蓋化広場における視覚的に境界のないみどりを創出する
- 敷地内で約2,500㎡のみどりを創出し、覆蓋化広場を中心とした駅・まち・水辺をつなぐみどりのネットワークを創出する
- 「優良緑地確保計画認定制度」（令和6年度／国交省）において、ランク★★★取得を目指す

### 計画地及び覆蓋化広場における視覚的に境界のないみどりを創出

- 覆蓋化広場前面の区道に加え、敷地内の空地やデッキの緑化を行い、立体的な緑化空間を整備する。
- デッキレベルの憩い空間が、覆蓋化広場を見渡す視点場となり、覆蓋化広場とデッキを視覚的につなぐ。

#### <断面イメージ>

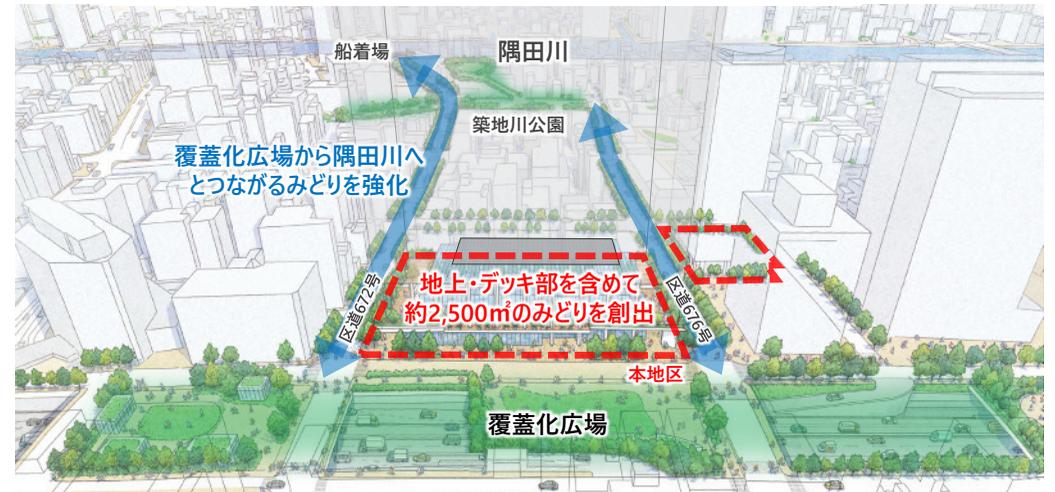


立体的な緑化イメージ

※覆蓋化広場の具体的設計は、今後中央区が首都高速道路(株)と連携して実施予定

### 覆蓋化広場を中心とした駅・まち・水辺をつなぐみどりのネットワークを創出

- 覆蓋化広場を中心に駅・まち・水辺をつなぐみどりのネットワークを創出する。
- レインガーデンの整備や、緑陰空間の確保によってみどりのクールスポットを創出し、歩行者空間の暑熱対策を図る。



2階アトリウムから覆蓋化広場を望む



みどり豊かな歩行者ネットワークのイメージ

# 3. 環境負荷低減と防災拠点整備

## 3-2 環境負荷低減への取組

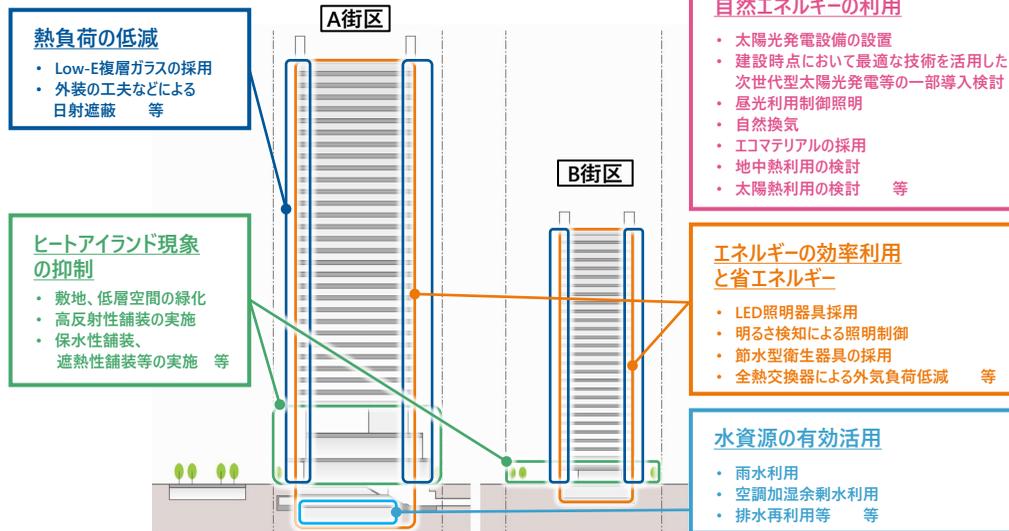
### 整備内容

- 建物の省エネルギー化による環境負荷低減の実施
- 低層部・高層部の切替え部に風穴空間を設け、建物低層部の緑化や散水等と併せて、冷却効果により計画地周辺のヒートアイランド対策を図る

### 建物の省エネルギー化による環境負荷低減の実施

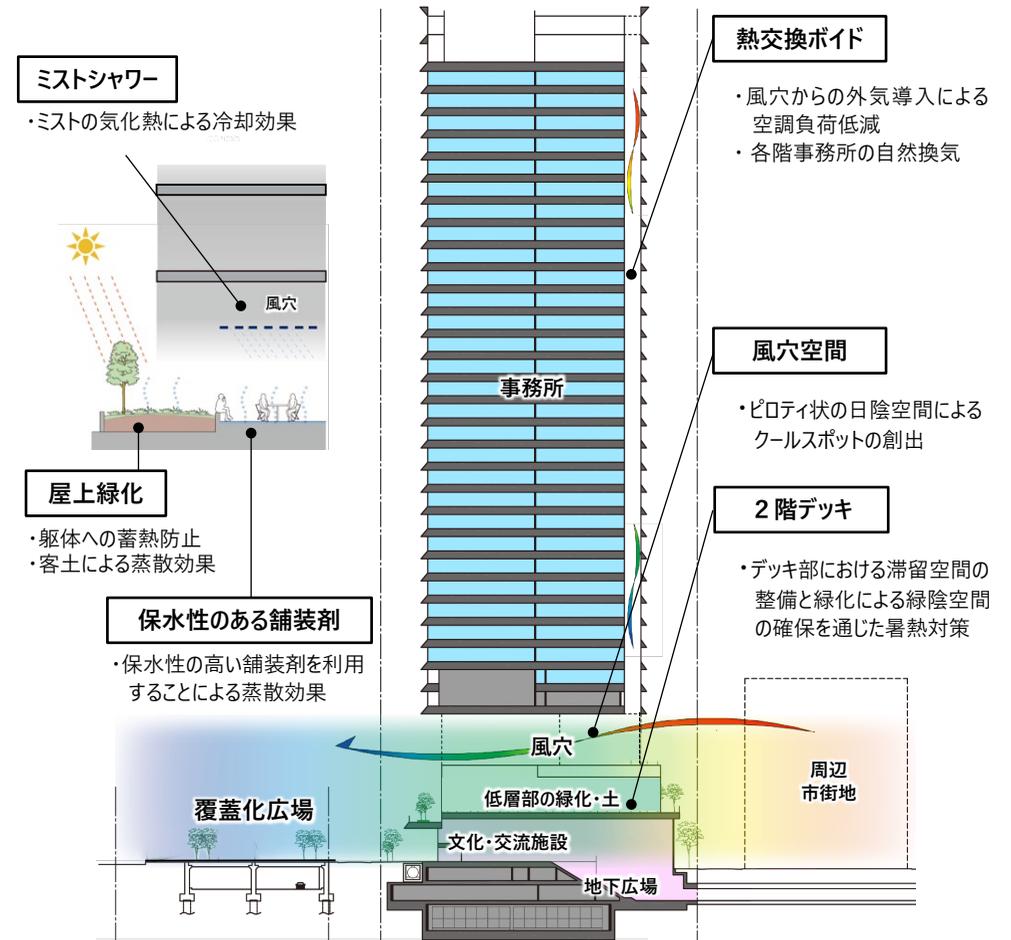
- 東京都建築物環境計画書制度（2025年度施行）のBPI及びBEIについては段階3を達成するとともに、着工時に計画書を提出する時点において、将来の制度改定の動向も踏まえた協議を実施し、BPI、BEI及び建設時CO2排出量の把握・削減をはじめとした各評価項目において段階3を目指す。
- CASBEE自主評価において、Aランクを確保し、Sランク相当を目指す。
- 環境負荷低減に向けた様々な取組により、A街区の事務用途については、ZEB Readyを達成する。
- B街区（特養用途除く）については、ZEH-M Orientedを達成する。
- A、B街区の非住宅部分は、用途別の一次エネルギー消費量について、ZEB Orientedの基準以下となることを目指す。
- 更なる省エネルギー実現に向けて、地区全体でZEB Readyを目指す。

### <取組内容イメージ>



### 風穴空間の整備によるヒートアイランド対策

- 低層部・高層部の切替え部に自然の風を取り込むための風穴空間を設け、建物低層部の緑化や散水等と併せて、冷却効果により計画地周辺のヒートアイランド対策を図る。



### 3. 環境負荷低減と防災拠点整備

#### 3-2 環境負荷低減への取組

- 整備内容** • ゼロエミッション東京の実現に向けた脱炭素化への取組と、電力需給のひっ迫回避に対応するHTTの取組

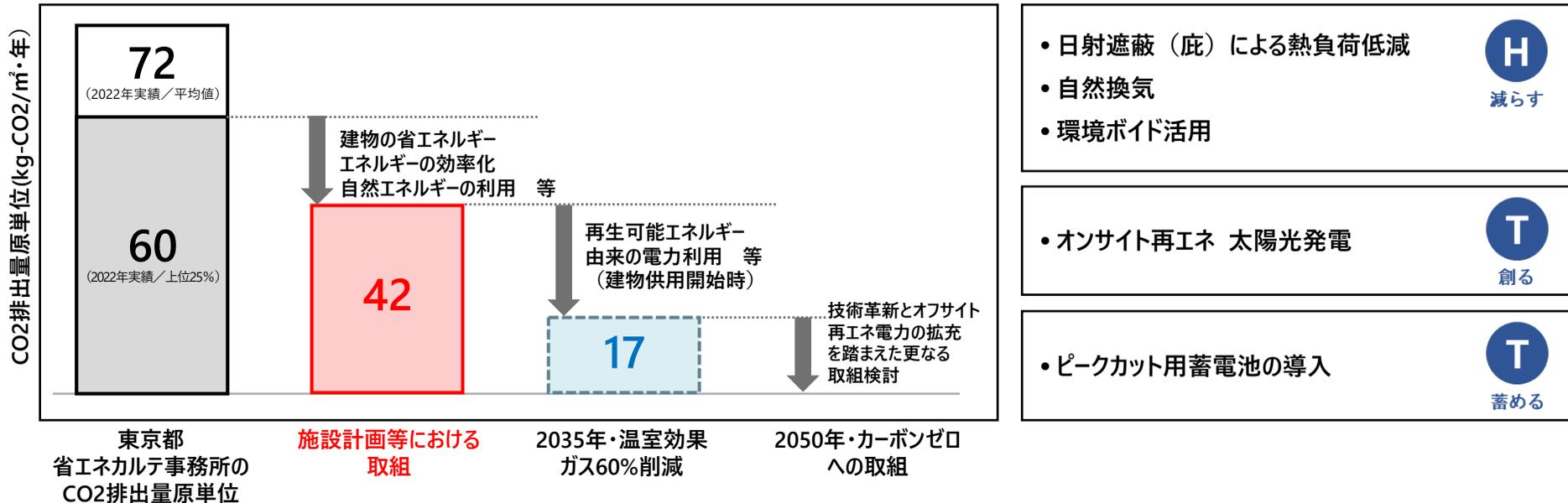
#### ゼロエミッション東京の実現に向けた脱炭素化への取組と電力需要のひっ迫回避に対応するHTTの取組

- **事務用途におけるCO2排出原単位は42Kg-CO2/m<sup>2</sup>・年を目指す**とともに、計画建物において使用する電気は原則100%再生可能エネルギー由来とすること等により、CO2排出量の更なる削減を図る。
- 再生可能エネルギーの利用のため、屋上設備等の配置の工夫や風洞実験等を踏まえて太陽光発電設備を最大限設置するとともに、追加性のある再生可能エネルギーの調達により、新しい都市づくりのための都市開発諸制度活用方針における誘導水準を確保する。
- 電力需要ひっ迫の際には、建物側の負荷（照明・空調等）を制限することで消費電力を抑制し、併せてピークカットを目的とした蓄電池を導入し、電力使用の平準化と環境負荷の低減を実現する。
- 技術革新などを踏まえた更なる取組の検討により、**2050年ゼロエミッション東京の実現を目指す**。
- ホールライフカーボンを把握・抑制する。

取組例  $\left\{ \begin{array}{l} \text{建設資材：鉄を使う部材の高炉材の電炉化、アルミ部材のグリーンアルミ採用、リサイクル率向上等} \\ \text{建設時：工事用電力に再エネ由来電力を使用、工事車両の軽油代替燃料の使用等} \end{array} \right.$

※東京都建設リサイクル推進計画（令和6年4月）・東京都建設リサイクルガイドライン（令和7年4月）に基づき、建設副産物のリサイクルに努める。  
 ※令和7年度東京都環境物品等調達方針（公共工事）を参考に、環境物品の調達に努める。

< 事務所CO2排出量原単位の目標とゼロエミッション東京の実現に向けた取組 >



※現時点での計画であり、今後関係者との協議及び検討の進捗により変わります。

### 3. 環境負荷低減と防災拠点整備

#### 3-3 帰宅困難者支援や自立・分散型エネルギーシステムの構築による防災対応力強化

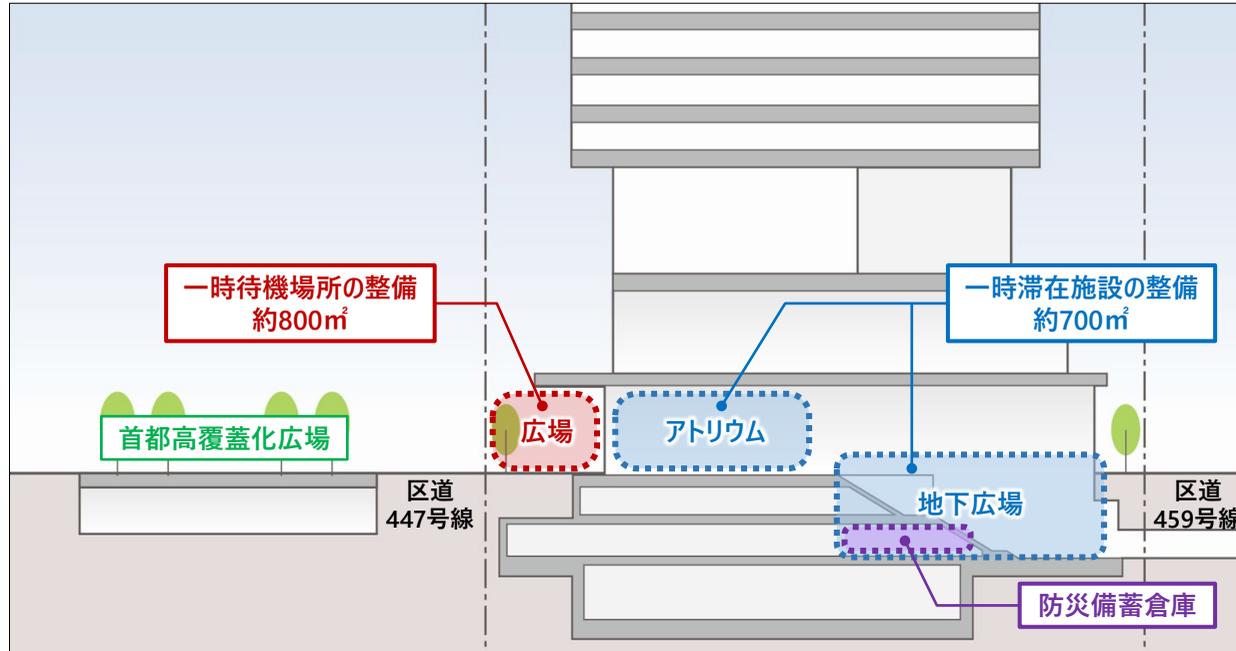
##### 整備内容

- 帰宅困難者一時待機場所及び一時滞在施設等の整備による防災機能の強化
- 自立・分散型エネルギーシステムの導入

##### 帰宅困難者支援機能の整備

- 帰宅困難者の一時待機場所（屋外）として、約800㎡（約800人相当）を整備するとともに、帰宅困難者の一時滞在施設（屋内）として、約700㎡（約400人相当）を整備する。
- 地下2階に帰宅困難者用として約60㎡、地域住民用として約50㎡の防災備蓄倉庫を整備し、帰宅困難者用の防災備蓄倉庫には、帰宅困難者向けの3日間の飲料水・非常食、毛布・簡易衣料、電池・簡易発電機等を備蓄する。
- 情報発信機能、災害時にも利用可能なトイレ等を整備する。
- 雨水利用するための貯留施設（災害時用）を設置する。

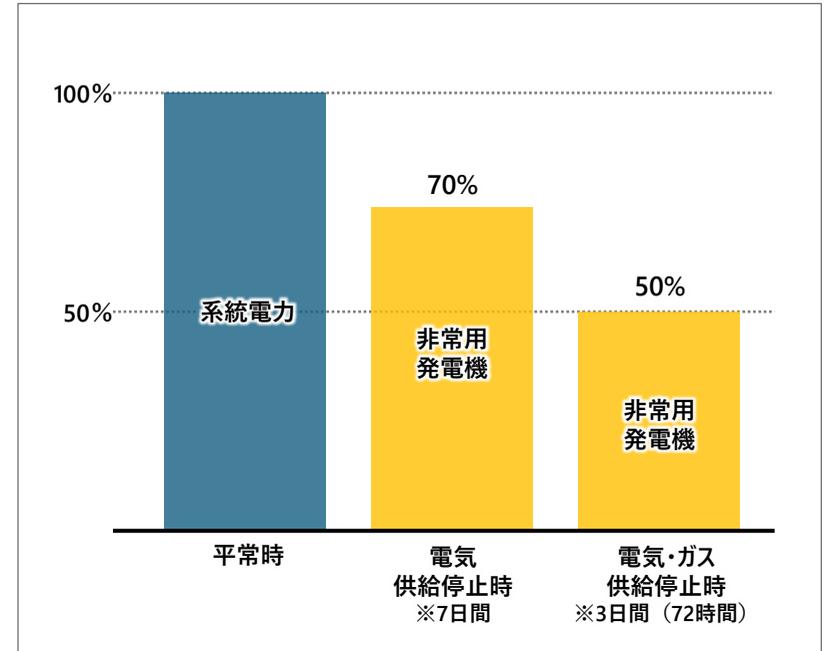
##### <A街区における帰宅困難者支援施設等の整備イメージ>



##### 自立・分散型エネルギーシステムの導入

- 災害時において安定的なエネルギー供給を実現するため、非常用と保安用を兼ねた非常用電源施設を整備する。
- 発災時には、一時滞在施設や防災センター等に優先的に電力を供給する。

##### <平常時・非常時の電力確保イメージ>



※現時点での計画であり、今後関係者との協議及び検討の進捗により変わります。

# 参考. 景観形成方針の考え方

## 遠景

都心における歩行者ネットワークの結節点として次代に相応しい都市景観の形成

- 都心部から臨海副都心までつながる、晴海通りを軸としたゆるやかなスカイラインの形成
- ゆるやかな曲面形状の外装による視覚的な柔らかさや流動性の創出
- 周辺市街地への圧迫感低減に配慮したファサードデザイン



## 中景

覆蓋化広場を中心としたみどり豊かなネットワークの創出によるまち全体で調和した景観の形成

- 周辺道路の表層整備等による、覆蓋化広場を中心としたみどり豊かな歩行者ネットワークの形成
- 周囲からみどりを感じることのできる立体的な緑化空間の整備
- 低層部の開放的な空間による、アイレベルでの圧迫感の軽減



※イベント時のイメージ

## 近景

周辺と一体感のある足元空間の整備による、地域の魅力を発信するにぎわい景観の形成

- まちかど広場の整備や区道の高上げによる覆蓋化広場との一体的な賑わい景観の形成 (A街区)
- 地下通路・地下広場の整備による、築地駅と覆蓋化広場をつなぐ歩行者ネットワークの整備 (A街区)
- 歩行者にとって安全な、交差点に面した滞留空間の整備 (B街区)



## 夜景

周辺市街地に配慮した夜間景観

- 低層部（覆蓋化広場に面した箇所）：賑わいある照明計画
- 低層部（その他の箇所）：安全・安心に配慮した温かみのある照明計画
- 高層部：周辺市街地に配慮した、周辺と調和した落ち着いた照明計画



※覆蓋化広場の具体の設計は、今後中央区が首都高速道路(株)と連携して実施予定

※現時点での計画であり、今後関係者との協議及び検討の進捗により変わります。